

# 整形外科外来だより

No 30 2016/2/15 けいゆう病院 整形外科 発行

## ◆人事異動のお知らせ◆

今回は5年4ヶ月当院の膝・肩・リウマチ関節外来を担当してくれた川崎俊樹先生が異動になりました。2月1日から済生会宇都宮病院に勤務しています。とても優秀な先生で、多くの患者さん方に頼りにされて、膝・肩関節の疾患の治療に、また難しい外傷の治療に手腕を発揮してくれました。当院にとっては大変な損失ですが、本人の成長のため、また私たちが所属している慶応大学整形外科医局のローテーションのためには必要なことですので、どうぞご理解をお願いいたします。しかし、その後任にはさらに強力な関口治先生が赴任されました。前任は済生会横浜市南部病院ですので、もしかすると受診されていた患者さんもいられかもしれません。専門は川崎先生と同じく膝関節とリウマチです。経歴も長く、手術の腕もなかなかです。これからよろしくをお願いいたします。

## ◆続脊柱管狭窄症のお話◆

腰痛、坐骨神経痛の原因はいろいろありますが、やはり今多いのは腰部脊柱管狭窄症です。「私が痛いのは足ですよ！それなのに何で腰が悪いのですか！」このようなことを外来でよく言われます。そうですね。でも実はおしりから太もも、膝下のすねの外側に走る痛みは坐骨神経痛で、その原因は腰、つまり腰椎が悪いことが多いのです。しかもじっとしていれば痛くない、歩いたときに痛むだけで、それだってちょっと休めばまた歩けるようになります。とても腰が原因だとは思えません。悪いのは足（下肢）ではないかと思われるのは当然です。でも、本当は腰の神経が変形や圧迫によって細くなってきているのです。神経の周りを走っている血管も詰まってしまうので、立って歩くと神経の周りの血流が不足してきて神経痛が生じます。どこかにつかまって腰を曲げたり、座ったりして休めば血流が回復して痛みが軽くなります。この現象を間欠性跛行と言います。しかも杖をついて、腰を曲げて歩けばどんどん歩けます。自転車ならどこまでも行けます。でも休んだり、座ったりしないで1回に歩ける時間が15分、距離が500m以下になったら治療が必要です。どうしてでしょう？「友人とデパートにお買い物に出かける、犬を散歩に連れて行く、夫婦で旅行に行く」など余暇の生活を楽しむのに、間欠性跛行があると「友達に遅れる、一緒に歩けない、奥さんに置いてけぼりを食わされる」など十分に楽しめないからです!! 杖をつかないで、腰を真っすぐに伸ばして歩きたい方は、どうぞ受診してください。近くの先生に紹介状をもらって来ていただければ、脊椎・脊髄センター外来が毎日あるので受診できます。けいゆう病院整形外科は脊椎・脊髄疾患の治療に力を入れています。（文責 鎌田修博）